楓園

ISSUE 91
2021 1/31
FÛEN【フウエン】
Toyo Eiwa Jogakuin
Public Relations Report



［巻頭特集］

ひかりにあゆめよ

－希望に向かう東洋英和の人々の道（ことば）－

東洋英和女学院
東洋英和楓の会

新体制が始動しました
増渕 稔 院長就任
髙橋 貞二郎 副院長就任

2020年10月30日開催の理事会において増渕稔理事長が新院長（理事長兼任）に選任され、11月1日に就任しました。また、2020年11月27日開催の理事会において髙橋貞二郎新副院長が任命され、12月1日に就任しました。東洋英和女学院の新体制を担うお二人の就任にあたっての言葉とプロフィールをご紹介いたします。

環境が大きく変化する中、「敬神奉仕」の建学の精神を堅持すると共に、変化に対応するしなやかさを併せ持つことで、学院のさらに豊かな未来が開かれるよう努めてまいります。

増渕 稔 院長

1943年生まれ。1966年東京大学法学部卒業後、日本銀行入行。1998年から2002年まで同行理事。2004年から2019年まで日本証券金融株式会社代表取締役社長、取締役会長を歴任。2005年より東洋英和女学院理事・評議員、2018年理事長就任、2020年11月1日院長就任。日本基督教団井草教会会員。

「敬神奉仕」の精神、卒業生や保護者の方々をはじめ東洋英和に関わる全ての人とのつながりを大切にしながら、学院の発展のために尽くしたいと思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。

髙橋 貞二郎 副院長

1963年生まれ。1991年東京神学大学大学院前期課程修了後、日本基督教団富士見町教会で伝道師、牧師として働く。1997年東洋英和女学院中高部聖書科教諭として就任。2020年12月1日副院長就任。現在、学院宗教部長、学院理事・評議員、日本基督教団鳥居坂教会協力牧師。



聖書の言葉

あなたがたは世の光である。（中略）ともし火をともして升の下に置く者はいない。燭台の上に置く。そうすれば、家の中のものすべてを照らすのである。

（マタイによる福音書５章　14-15節）

この言葉は、主イエスが山上の説教を聞いている人々に宣言なさった言葉です。当時の家屋ではともし火が一つあれば部屋中が明るくなりました。それを升の下に置いたのではともし火としての役割は果たせません。燭台の上で、自分の身を燃やし続けるのがともし火です。それは、自分が輝いて賞賛されるためではありません。主イエスからの光を受けて、周囲を照らすために用いられることです。光である主イエスに用いられて、神と隣人に仕える者でありたいです。

学院評議員、大学非常勤講師　田中 かおる（安行教会牧師）

巻頭特集のタイトルは讃美歌（1954 年版）326 番
『ひかりにあゆめよ』から着想を得たものです。

［巻頭特集］

ひかりにあゆめよ

－希望に向かう東洋英和の人々の道（ことば）－

**どんな困難にあっても自分を支える力をくれる言葉や絆があります。
困難の中でも懸命に社会や人とつながり、
かけがえのない生活を守ろうと力を尽くした東洋英和の人々の
希望のひかりに満ちた言葉や永久に色褪せない精神を伝えます。**



神を信じ神を祈る時にのみ
我々は勇気と力を与えられる。

元院長・理事長の
長野彌氏が寄稿した言葉
（『東洋英和新聞』第 57 号「卒業生に贈る」1958 年 3 月 13 日発行）

雨の後に虹は出ます。
恵みの虹を信じましょう

1898 年に 2 回の台風により、
建築中の校舎が 2 度倒壊した時の校長、
ミス・ブラックモアの言葉



私は一歩先すら見えない
1年の日々を歩む時に。
しかし過去はなお神の守りの中にある。
未来は神の慈しみが明らかにするだろう。
そして遠く暗く見えるものは
近づくと明るくなってくるかもしれない。

（イギリスの女流作家、ミューロック Dinah Maria Mulock（1826-1887）の詩
『神知りたもう』より）



I see not a step before me
As I tread the days of the year.
But the past is still in God's Keeping.
The future His mercy shall clear,
And what looks dark in the distance
May brighten as I draw near.

創立者、初代校長のミス・カートメルが自分の聖書に書き込んだ詩
日本での厳しい宣教生活を乗り越える力の一つになったと思われる

新型コロナウイルス感染症の先行きが不透明な中、人々の命を守るために奮闘している医療従事者の皆様、人々の社会生活を維持するために尽力を続ける全ての皆様へ、感謝申し上げます。

東洋英和女学院

取材は 2020 年 10 月に実施しました。

Contents

P.01 増渕 稔 院長・髙橋 貞二郎 副院長就任

［巻頭特集］

P.02 ひかりにあゆめよ －希望に向かう東洋英和の人々の道（ことば）－

From the Garden of Kaede

P.09 楓の園から［学院 NEWS］

P.17 *Cartmell's Prayer*［宗教教育委員会］

P.19 教員紹介

P.21 東洋英和楓の会



STORY

社会を支えるために働く東洋英和の人々

コロナ禍でも明日に一筋のひかりを求め、懸命に自分の責務を果たし続ける人たちがいます。そんな人々の力となる言葉を教えてもらいました。

池澤 裕子さん

1989年高等部卒業。都内総合病院整形外科部長。地方の病院勤務などを経て、2016年から現職。中高時代はスキー部部長を務め、現在は小学部のスキー教室に随行し参加者の健康をサポートしている。

STORY 01

一筋のひかりに導かれ新しい未来へと歩んでゆく

私は、幼稚園から高等部まで東洋英和で過ごし、礼拝や先生方のお教えによって、人々のために力を尽くすという敬神奉仕の精神が自然と身につき、医師への道に進みました。整形外科を選択したのは、中高部のスキー部での怪我の経験がきっかけでした。

新型コロナウイルス感染者が増えてきた2020年3月末、勤務する病院内で感染が発生し、状況は一変しました。今までの診療が一切できなくなりました。通院患者さま一人ひとりに電話で症状を伺い、リハビリの仕方等を説明しました。少しでも安心していただけるよう、患者さまに積極的にお声掛けをして治療いたしました。患者さまからはご自身も不安な中、私を気遣う言葉をいただき胸が熱くなりました。

今回の経験を通して診療に関わる看護師や事務員等の方々、調理や清掃といった院内の生活すべてを支える方々のありがたさを強く感じました。また医師として常に患者さまに心を配り医療を提供する側でありましたが、今回患者さま、物心両面から支援をしてくださった企業や個人の方々、また東洋英和の先生方・友人から多くの真心をいただきました。私の家族・小さな姪たちに何度も励まされました。感謝で支えあっていることを改めて心から感じました。

今はまだ先の分からない厳しい状況ですが、行く先に一筋のひかりがあると思います。神様からいただいた命を大切に、新しい未来へ向かって、この危機を乗り越えていかなければならない、乗り越えていけると確信しています。

池澤さんを支える言葉

人は生かされている。神様からいただいた命

「人は自然に帰りなさい。そして自然を大事にしなさい。原点に戻って、見つめ直しなさい。物にあふれ、物を粗末にして、そしていらないものは捨てていく。そんな事をしていたら、皆滅びるのだよという神様からのメッセージなのかとも思います。」※

新型コロナウイルス感染症で亡くなった、デザイナー・高田賢三氏がコロナ禍の中で寄せた手記です。緊急事態宣言中、人通りのない道路でふと見あげると、青空や新緑を目にして自然は季節通りに進んでいると感じ、人間はやはり自然の中では生かされているという思いを持ちました。自分も足下を見つめ直し進みたいと思います。

※2020年10月6日（火）読売新聞「コロナ禍のパリから」より

東洋英和の人々の道（ことば）　どんなことになっても、祈る力と、笑う力と正確な判断力だけは失うことがありませんように
（東洋英和の元宣教師、元師範科専任教員・短期大学保育科教授　ミス・キュックリヒ）

STORY 02

つらい時だからこそ、労を厭わず人に丁寧に接する

現在、心理士として企業に所属しています。精神疾患などで休職した社員が復職する際、回復したかどうかを診断する産業医・看護師とチームで対応し、精神科医と共にメンタル面での相談を受けるなど社員個人や彼らをサポートする事業所へのアドバイスを行っています。私の所属先は東京にあり、東日本全体の事業所を担当しているため、新型コロナウイルス感染症拡大の中で診察や面談を「リモートでよいのでは」とおっしゃる遠方の方が多く、対面の大切さを理解していただくことに気を配る日々です。

一方で、新型コロナウイルス感染症の影響でメンタルを病む人が増えたと思われがちですが、実は大きな変化はありません。むしろ、すべての人が共通して苦境に立たされている現状に、「みんなつらいのだから私もがんばらねば」と発奮し、復職される方が目立ちます。それは喜ばしいことですが、私は、無理をしないで自分に向いたことをし、自分の得意な能力を伸ばせばいいと思っています。

大学院時代には心理面接を担当させていただき、精神疾患を抱えたり、お仕事や恋愛の問題に苦しんでおられる方々とお会いしましたが、指導してくださった先生のアドバイスを受けながら「できることをしたらいい」と伝えることができた経験が今につながっています。

また、中高部で先生から「労を厭わず行動しなさい」と言われていたことも思い出します。そんな先生方ご自身が労を厭わず、一人ひとり異なる私たちに対し、オーダーメイドのように真摯に向き合ってくださいました。私も相談者一人ひとりに対し、丁寧に対応していきたいと考えています。

高瀬 寛子さん

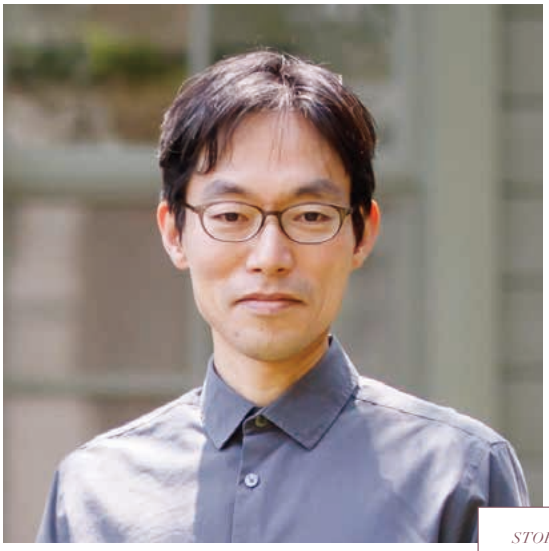
中学部から大学院まで東洋英和で学ぶ。1998年大学院修了。公認心理師、臨床心理士。スクールカウンセラーなどを経て、パナソニック健康保険組合健康管理センターメンタルヘルス科勤務。



高瀬さんを支える言葉

無理をせずに自分らしく、できることをしたらいい

東洋英和で教えられた「敬神奉仕」という言葉を、中高部にいた頃はよく理解できていませんでしたが、今思えば「自分で考え、自分にできることをしたらいい」と自由に考え、行動させてもらえた経験が今に生きています。復職したい社員が会社にうまく適応して働けるようにサポートする中で、「貢献しなければ」と思い詰める人を見ることもあります。しかし「挑戦」と「無理」は別ものです。誰しも会社の中で自分の思うようにできないこともあります。そんな時、その人が今できることを見つけ、その人らしく生きられる道を探せるような支援をしたいと思っています。



STORY 03

互いのスタイルを尊重し合える風潮が育つように

児童精神科医師として病院での診療に当たっていますが、普段学校でストレスを抱えている子どもたちには、新型コロナウイルス感染症の影響で休校となったことでかえって調子が良くなるなどの傾向がありました。コミュニケーションが苦手だと思われている子どもたちこそ、オンラインによる新たなコミュニケーションスタイルによくなじめていると実感できました。

オンラインが向いている人、対面が向いている人、人それぞれですが、今回の自粛生活を機に、お互いのコミュニケーションスタイルを尊重する風潮が育つことを願っています。そして子どもたちが自分に適したスタイルを模索していけるようにサポートしたいと思っています。

私自身は家族との時間が増え、自分が何を大切にしたいかを改めて考えました。私の支えは人とのつながりや趣味などですが、根本にあるのは、日々の生活で与えられる喜びなのだと思います。それがあるから、どんな状況にあっても今、自分がなすべきことができるようにと日々祈りながら生きていられるのです。

篠山さんを支える言葉

詩「病者の祈り」A CREED FOR THOSE WHO HAVE SUFFERED

これといって、支えとしている言葉があるわけではありませんが、今回改めて考えてみて、有名な「病者の祈り」は自分が求めたいことを表してくれている気がし、困難な状況で励みになると思います。

篠山 大明さん

1982年かえで幼稚園卒園。東京大学理学部卒業後、児童精神科医を志し改めて医学部に進む。信州大学医学部精神医学教室准教授、同学附属病院こどものこころ診療部医師。



STORY 04

敬神奉仕を心の支えに神のため人のために

知的障がい者支援施設には体が弱い方も入所されているので、新型コロナウイルス感染症発生当初は情報収集、衛生用品の確保、感染した場合のシミュレーション作成などに追われていました。

緊急事態宣言中は、通所の方には自宅待機を依頼しましたが、日常生活の変化に弱い方もおり、ご家族対応も含め苦慮しました。宣言以降、入所の方の外出や家族との面会は10ヶ月以上中止されています。そのため、不安を与えず施設内で楽しんでもらえるよう努めています。利用者のご家族からは、ねぎらいや励ましの言葉をいただき、手作りマスクなどを寄付してくださる方も多く、たくさんの愛を感じることができました。

職員も行動制限がありましたが、「新型コロナウイルス感染症に絶対にかからない。持ち込まない。利用者の命を守る」という強い信念を共有し、職員同士にチームとしての一体感が生まれたことも日々のモチベーションになりました。

安全が担保されるようになったら、利用者とご家族の面会を実現し、一緒に外出や旅行に出かけたいです。

下畑さんを支える言葉

敬神奉仕

毎日神様に感謝とその日の願い事をしています。それでも、何のために仕事をしているのかと思い悩む時は、すべては神のため、人のために尽くす、という敬神奉仕の精神に必ず立ち戻るようにしています。

下畑 成江さん

1988年高等部卒業後、短期大学保育科、保育専攻科を1991年に卒業。知的障がい者支援施設、社会福祉法人 南風会 シャローム みなみ風で支援主任を務める。

東洋英和の人々の道(ことば)　本当に人を愛そうとすれば、その人の本当の状態、問題、そしてその困っていることの原因を知りたいと思うはずです（東洋英和の元宣教師、元短期大学・中高部教員　ミス・ブラウン）



STORY 05

困難な状況でも優しく前向きな英和の仲間に支えられて

麻酔科の医師として働いていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で手術麻酔の仕事が減少した代わりに、麻酔科管理の集中治療室が新型コロナウイルス感染症重症患者専用病棟となり、2ヶ月ほど専従勤務になりました。感染も怖いですが、報道と現場のギャップの大きさや、職員同士でもコロナ治療に携わっているか否かで考え方が異なり悲しい思いもしました。

非常事態の中でも英和生の支えは印象的でした。メールだけでもうれしいところを、自炊用にと素敵な食器を送ってくれた友人や、自分も必要なマスクやフェイスシールドを送ってくれた同業の友人。病院に物資が届くチャリティ先を探してくれた海外在住の友人も。英和生たちの、相手に何が必要なのかを考え、具体的な支援を行う優しさに涙があふれ、困難な状況にあっても前向きな姿勢に元気をもらいました。

何が起きるか分からない時代ですが後悔のないよう、周囲への感謝を忘れずフレキシブルに生きたいと思います。

田中さんを支える行動

迷ったらつらい方を選ぶ

水泳が苦手で中学部2年生の野尻夏期学校では4段階の4番目、赤帽子でした。高等部に進み、キャンプリーダーを志願して参加した訓練キャンプで水泳が上達した経験がこの行動につながっています。

田中 亜紗美さん

1999年高等部卒業。帝京大学医学部附属病院麻酔科医師。看護師を4年間経験した後に大学で学び、都立病院での初期研修を経て医師に転身。医師となって6年目となる。



STORY 06

子どもを守るために気を張り当たり前を見直し続けた日々

新型コロナウイルス感染症発生以降、子どもと接する仕事である保育士は、他の職業に比べ、より日々の行動に気を張る生活が続きます。保育者や教育関係者の感染がニュースなどで大きく取り上げられる事態もとても苦しく思いました。

マスク着用は、保育者の表情が隠れ、幼い子どもにまなざしや感情を読み取りづらくさせ、困難を感じることもありました。マスク着用に慣れつつあることに怖さを感じるとともに、このような生活をいつまで続ければよいのかと不安になります。

一方で、登園自粛家庭の多い期間は、時代や社会の動きを意識した保育の在り方を考えたり、行事や保育内容が子どもの成長発達に合ったものか話し合うなどの時間が多く持てたことは有意義でした。

本当に必要なものはそんなに多くはない。今回の困難な状況の中で気付いたのはこのことでした。当たり前だと考えていたことは必ずしもそうではなく別の方法もある、と新しい視点を持つことができました。これからも、先入観を持たず、目の前の物事に向き合いたいです。

藤原さんを支えるもの

身近な人々の思いやり

「大変ですね」と温かい言葉をかけてくださる保護者も多く、困難を一緒に乗り越えていこうとする雰囲気の中、子どもたちの笑顔や職員同士の「迷惑はかけあって」といった言葉に助けられました。

藤原 由佳さん

2003年大学人間科学部人間福祉学科卒業。社会福祉法人 厚生館福祉会 宮前空翠保育園に勤務し、現在は主任保育士として園長を補佐し、保育士をまとめる役割を担う。

東洋英和の人々の道(ことば) 神様はどんな災禍をも善に代えてくださる（元小学部部長　外﨑長三郎先生）

あなたが勇気をもらった行動や言葉は何ですか？

栗木さんが勇気をもらった行動や言葉

風立ちぬ、いざ生きめやも
（ポール・ヴァレリー／フランスの詩人）



中学部
中学部２年
栗木 心音さん

100年前に生きた詩人の言葉。すっくと立ち上がり歩み出した人の後ろ姿を思わせる、力強い「生きる」というメッセージに私は心打たれた。時代という名の風に吹かれ、彼は確かに生きていた。ウイルス、災害、差別を連れてきた2020年の風。今をともに生きる人たちと、この時代を乗り越えていける強さを私も育みたい。「今風は吹いた。さあ、共に立ち上がろう」

桑原さんが勇気をもらった行動や言葉

医療従事者への感謝と患者を
励ますために演奏するバイオリニスト

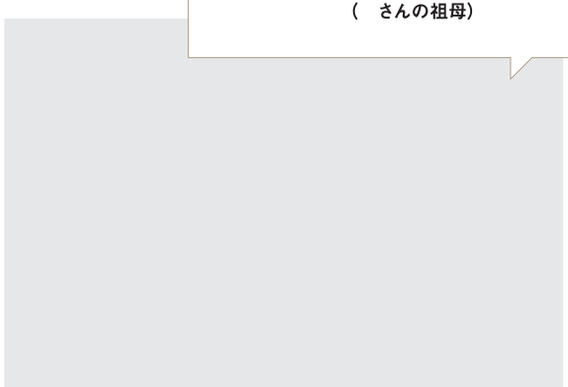


小学部
小学部６年
桑原 希和さん

新型コロナウイルス感染症が拡大していたイタリアにおいて、女性バイオリニストが病院の屋上で演奏する様子が話題になりました。医療従事者への感謝と患者が再び音楽を楽しめるようにとの願いを込めた演奏を見て勇気をもらいました。祖母や母のお手伝いをして少しでも元気をあげるようにしました。これからも人に親切にして、周りの人々を元気にしたいです。

さんが勇気をもらった行動や言葉

感謝だけは忘れてはダメ。感謝すると、
嬉しい、よかったって、明るくなれるから
（　さんの祖母）



休校中に祖母に言われた言葉です。祖母の言葉で、人と会うことや自由な外出がままならない中でも、その状況と自分がどう向き合うかで、感じ方や見える世界が変わると気付きました。それは他者を思いやる隣人愛や感謝の大切さを説く東洋英和の教えとも通じると感じます。私も自分に何ができるかを考え挑戦することで今の試練を乗り越えたいです。

勝見さんが勇気をもらった行動や言葉

自分と同じような経験をしている病気に
なった人たちに勇気を与えたい
（池江璃花子／水泳選手）



小学部
小学部６年
勝見 花香さん

水泳選手の池江璃花子さんが、白血病から回復した時の言葉に勇気をもらいました。私も水泳を習っていますが、病気を克服してきつい練習を再開されたことは本当にすごいと思います。自分のことだけではなく、病気で苦しむ人々のことを思いやる池江さんの思いは敬神奉仕にもつながります。私はつらい時があっても、前向きに生きる池江さんを目標にしたいです。

東洋英和の人々の道(ことば)
私たちは被災された方々の立場に立って、何ができるか、
又これからの時代に向かって何を為すべきかを考え実践する必要があります（元理事長・院長　池田守男氏）

常に前を向いて進む人の言葉や行動は、自分が立ち上がるための力になります。
東洋英和で学ぶ児童・生徒や学生たち、卒業生の方たちの
勇気をもらった行動や言葉を紹介します。

服部さんが勇気をもらった行動や言葉

お客さまからの温かいエール



卒業生

大学人間科学部人間科学科卒業（2011 年 3 月）
東日本旅客鉄道株式会社勤務

服部 友美さん

新型コロナウイルス感染症対策として、勤務している鉄道会社では、社員の発意で除菌作業を行っていました。お客さまに安心して快適にご利用いただきたい一心でした。その姿に感動したと女優さんが SNS で発信してくださり、多くの賛同が寄せられました。自らの意志で取り組んだ行動に温かいエールをいただいたことに深く感謝し、大きな勇気を与えられました。

鶴田さんが勇気をもらった言葉や行動

将来の夢に向かって進み続ける
東洋英和の先輩の姿



大学

人間科学部人間科学科心理科学専攻 3 年

鶴田 園さん

何に対しても一歩踏み出すことをためらってしまう私に、東洋英和の先輩たちは将来の夢に向かって全力で進むことの大切さを教えてくれます。自らを深く考察し、社会問題に関心が高いその姿は、かけがえのない自分に気付き他者を愛する東洋英和の学びともつながります。積極的な先輩たちの姿を励みに、私も自分の力で将来の夢をつかみたいです。

白砂さんが勇気をもらった行動や言葉

自分なりの働き方について
デザインはしておこう
（蓑口恵美／内閣官房シェアリングエコノミー伝道師、
株式会社ガイアックス（シェアリングエコノミー協会））



卒業生

大学国際社会学部国際社会学科卒業（2017 年 3 月）
株式会社時事通信社勤務

白砂 翔子さん

新型コロナウイルス感染症の影響で在宅勤務が始まり、自分らしいキャリアとは何か思い悩む中、多拠点生活など未来の働き方を模索し続ける蓑口恵美氏を知りました。世の中で起きていることにしっかりと向き合い、それに対して自分自身がどうあるべきかを常に考えるその姿勢は東洋英和の学びにも通じ、自身の生き方考え方を振り返る良い刺激になりました。

堀川さんが勇気をもらった行動や言葉

過去を変えることはできませんが、
まだ 2 週間後の未来を変えることができます
（藤井貴彦／アナウンサー）



大学

人間科学部人間科学科 1 年

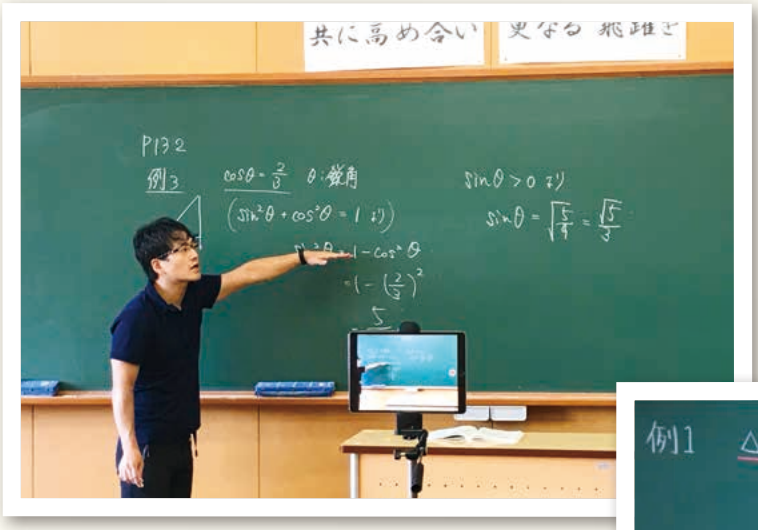
堀川 莉子さん

新型コロナウイルス感染症に関連したニュースで聞いた言葉ですが、私には現在と将来の関係を表していると思えました。それは、終わったことは変えられないけれど、未来は変えられるということです。新型コロナウイルス感染症によってつらいこともあるけれども、現在の行動が未来を変えることになる。私はそれを原動力に今日もがんばろうと思えます。

From the Garden of Kaede



1



2



3

手探りの挑戦

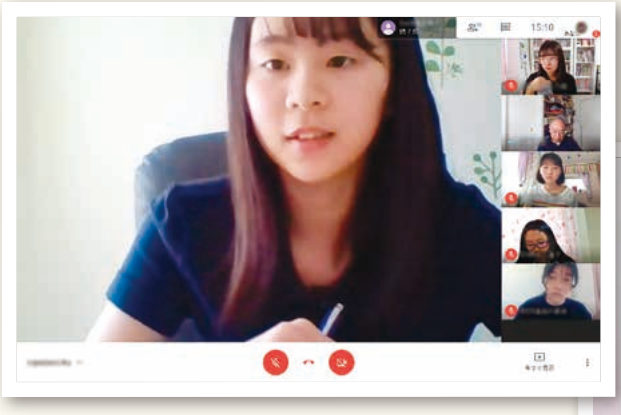
～中高部の休校中の取り組み～

1 生徒宅（約 1,000 名分）へ送付する教科書などの箱詰め作業完了（4 月上旬）

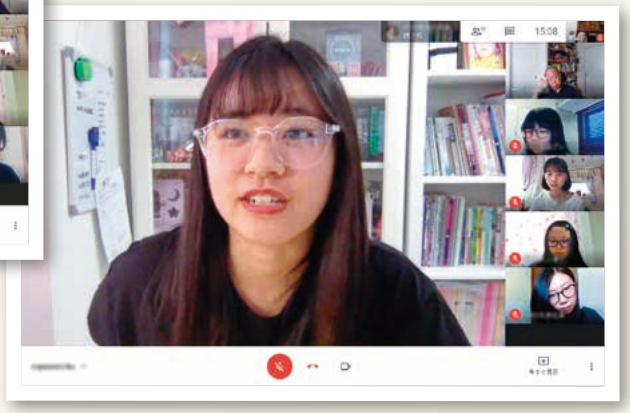
2 配信授業（学校から生徒へ）

3 配信授業（自宅に黒板を準備した先生宅から生徒へ）

4・5 双方向のオンライン授業に参加する生徒



4



5

ピンチをチャンスに変え、新しい試みにチャレンジ!!

生徒指導主任　黒澤 路子

今年度4月からの生徒会活動は、誰もが経験したことのない前代未聞の事態の始まりでした。3月から休校措置により学校全体の活動が制限され、予定は頓挫。例年通りにいかないことに落胆、不安、焦りを感じたものの、そこは英和生のすごい所。絶妙にしなやかに、新たにできることを見いだしながら活動しています。

Stay Home期間

生徒会役員会は4月下旬からオンラインでスタートし、この状況で全校生徒にどのような発信ができるのか、活動を模索し始めました。オンライン役員会で相談し、データのやり取りを重ね、5月19日に生徒会報「EIWA TIMES」とStay Homeを呼びかける動画をHPで配信しました。各クラブもSNSを使って連絡を取り合い、在宅の中でできる活動を行いました。

その姿勢には、自分たちのことだけではなく、ずっと会えない友だちや、まだ制服を着て登校できていない中学1年生に向けての上級生からの思いが詰まっていました。ハンドベル部の「ダイヤモンド・プリンセス号の乗客や乗員の方にもお届けした演奏動画」(*)、高3有志の「『校歌』を歌おうプロジェクト」で新入生に学校生活を紹介する動画」、生徒会役員会の「動画による生徒会入会式」「英和結び」「英和生の心得」、各クラブの「クラブ紹介動画」など、次々とこれまでと違った活動ができました。

生徒会活動再開に向けての模索、そして楓祭実施

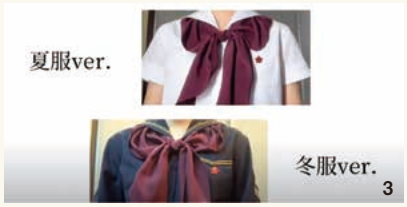
学校生活が少しずつ再開し、生徒会活動も7月中間試験後から校内活動の再開が予定され、ソーシャルディスタンスを保ち感染予防をしながら活動をどのように行うのか、顧問の先生も交えて、連日話し合いが持たれました。「対外試合中止」や「飛沫感染予防のため一度に活動できる人数を減らす」など、活動の縮小を余儀なくされましたが、この状況下でできる形を模索していきます。

生徒会の最大の発表の場である楓祭も、「それぞれの場で生徒全員が輝いてみんなが主役になる楓祭にしたい」という楓祭実行委員会の切なる思いも加わり、「オンライン開催」ではない「楓祭の実施」を目指して準備を始め、無事にみんなの思いの詰まった楓祭を行うことができました。



1


2



3



4

1. 校歌を歌おうプロジェクト　2. 新入生入会式の生徒会長あいさつ　3. 英和結びの紹介　4.「ひんやりマスク」の製作（売上金の一部はSave the Children JapanのPROTECT A GENERATIONに寄付）

今後の活動

生徒会長の鈴木明日香さんは、「私たちは『今何ができるのか』『何をすべきか』だけを考えて、いろいろな取り組みを行ってきました。思いがけなく従来と異なる年度となった生徒会活動ですが、ピンチをチャンスと捉え、新しい試みにチャレンジできる貴重な機会だと思い、引き続き活動したいです」と語っています。

できないことがあったからこそ、人と繋がりながら今できることを精一杯できる幸せと、たくさんの感謝の気持ちを感じつつ、新たな発見や工夫をしながら生徒会活動は続いていきます。



今年の楓祭のテーマは「再生」。
「一時停止からまた前に動き出そう」という気持ちを込めて。
※撮影時のみマスクを外して集まっています。

(*)ハンドベル部の演奏動画はこちらからご覧になれます。

大学における コロナ禍への対応

大学事務部長　石井 洋之

皆様には、大学の事務運営に関し常日頃のご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

2020年4月に事務部長を拝命し、今年度の公式行事としては初めてとなります9月卒業式を対面で挙行でき、卒業生を送り出せましたことは、とても感慨深いことでした。

新型コロナウイルス感染症は未だ収束の兆しは見えませんが、本学におけるこれまでのコロナ禍への対応を振り返りますとともに、今後の指針の糧としたいと思います。

最下段に「新型コロナウイルスに関する時系列表」の形で、Ⅰ期、Ⅱ期、Ⅲ期、と整理してみましたので、ご参照ください。

まずⅠ期は、新型インフルエンザ等対策特別措置法の成立と緊急事態宣言が発出された時期です。皆様の安全と健康を確保することが最優先の使命となりました。三密を回避すべく、卒業式および入学式等の行事は中止とし、学内への入構は原則禁止という中で、授業も一律オンライン開講という苦渋の決断に至りました。学生の皆様の不安に応えられますよう、オンライン相談窓口による学生支援やオンライン環境整備支援金の給付決定をいたしました。

次にⅡ期は、緊急事態宣言の解除を契機に、本学も「健康と安全」と「学修機会」の両立を施す措置に踏み切りました。①学内施設における消毒・三密対策の徹底に加え、入構管理においては、健康相談室特設ブースを設置し、保健師常駐態勢の下、サーマルカメラ等による水際対策を強化いたしました。②教育研究に必要不可欠な学内施設である、図書館、PCルーム、キャリアセンター、学習サポートセンター、教職実習センター、ラーニングコモンズ等の利用開放をいたしました。③4月から延期しておりました健康診断も、7月から8月の計6回の土日を利用し、分散登校・教室分散を施し、約1800名の方に無事受診いただきました。来校に不安のある学生の方には外部医療機関で受診した場合の補助金をご用意いたしました。また、不安がある学生の方のために、健康相談室と学生相談室における一層のサポート態勢を敷いております。

最後に、9月以降のⅢ期についてです。後期の授業は、教職・実習等資格要件に関わる授業を優先的に対面授業とし、それ以外はオンライン開講としました。対面促進の観点から、各学科主催のガイダンスの実施にも取り組んでおります。公認部団体の活動も許可制で開始され、シャトルバスも再開し、キャンパスに学生の皆様の姿を拝見できるようになり、教職員にとって何よりの喜びです。後期授業受講マニュアル整備や学費相談窓口設置等を通し、学生の皆様の利便に一層資するよう工夫を凝らしていく所存です。

次年度は、充分な感染防止策を施し、可能な限りの対面授業を推進する方針です。

引き続き皆様のお力添えを賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

5号館1階に設置したサーマルカメラ



〈2020年新型コロナウイルスに関する時系列表〉

	Ⅰ期：3月～5月	Ⅱ期：6月～8月	Ⅲ期：9月以降
主な大学行事（×は中止）	×卒業式 ×入学式・オリエンテーション ×オリエンテーション合宿		9月卒業式 ×かえで祭
主な学内対応	前期授業/一律オンライン オンライン環境整備支援金の給付決定	教育施設の利用開放 健康相談室特設ブース設置 健康診断実施	後期授業/対面とオンラインの併用 オンライン保護者会 公認部団体活動再開（許可制）
政府等の動き（×は中止・延期）	緊急事態宣言発出（4月） 文部科学省『学生支援緊急給付金』制度 緊急事態宣言解除（5月）	×東京五輪・パラリンピック延期 GoTo トラベルキャンペーン開始	入国制限措置緩和
コロナ累計感染者数（世界/日本）	4月上旬 （100万人超／3,000人超）	6月上旬 （600万人超／16,000人超）	11月下旬 （5,800万人超／13万人超）

オンライン授業移行の困難と対応

国際社会学部 国際コミュニケーション学科教授
平体 由美

新型コロナウイルスの社会的影響拡大の中、東洋英和女学院大学は2020年度、原則として授業をオンラインで実施し、どうしても対面で実施しなければならない科目のみ後期よりキャンパスで開講するという方針で授業を執り行いました。オンライン授業への移行決定が新年度に入った直後だったため、さまざまな混乱が予想されましたし、実際に少なからぬトラブルが発生しました。しかし、「学生の学びを止めてはならない」を合言葉に教職員が一丸となり、5月13日より前期を開始する運びとなりました。

オンライン授業化で大学が直面した困難は、教職員のみならず、学生のコンピュータースキルや通信環境もまちまちであったこと、学修や学生生活を支えるさまざまな部署――図書館、ブックセンター、食堂、チャペル、学生相談室、キャリアセンターなど――もオンラインへの対応を迫られたこと、大学が発信する情報が学生になかなか伝わらず学生の不安が高まったことでした。とりわけ、大学を知らない新入生をどのように大学での学習に適応させるかは、教職員の大きな挑戦となりました。

授業については、教務委員会とFD委員会の連携により、オンライン授業の組み立て方やオンライン学習支援システムの使い方などの講習会を複数回開催し、またメールによる相談窓口を開設することによって、教員の混乱を最小限に留める努力がなされました。また学生に対しても、各学部学科と学修支援委員会が中心となり、ガイダンスと相談に対応しました。

学生と教職員双方がそれなりにオンライン授業とその運営に慣れた現在、対面でのコミュニケーションが大学の重要な価値を構成していたのだということを、より一層意識させられています。これまでの活動に関する評価と反省をもとに、今後も学生の学修と大学生活の充実に尽力していきたいと考えます。



オンライン授業の準備風景（フレッシュマン・セミナー）

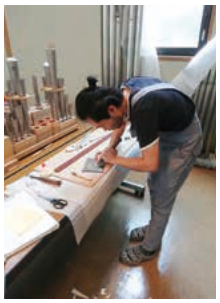
パイプオルガンのオーバーホールが行われました

2020年6月29日から7月30日まで、礼拝堂パイプオルガンのオーバーホールが、このオルガンのメンテナンスを受け持つ株式会社マナ オルゲルバウにより行われました。礼拝堂のオルガンは米国ノアック社制作で、1993年に設置されました。日常の礼拝、チャペルコンサートやクリスマス礼拝といった大学行事、学生オルガン講習会、生涯学習講座等に用いられ、今年で設置28年となりました。数年前よりオーバーホール（楽器を解体し、細かな点検や調整、補修、耐震補強、オルガン内の清掃を経て再度組み立てをすること）が望まれ、ついに施工となりました。

まずはオルガンの周りに足場が組まれ、パイプが1本ずつオルガン本体から取り外されました。本学のオルガンには人の身長を優に超える長さのパイプからお箸サイズのものまで、計1154本のパイプがあります。取り外されたパイプには、内部のホコリ除去作業やゆがみの補正、耐震補強等が施されました。並行して、空洞となったオルガン本体の掃除機掛けや、足元にある鍵盤を照らす照明をLED対応にするといった工事も行われました。

それらの作業が終わるとパイプが再びオルガンに戻され、本学の礼拝堂に合わせて整音（音の調整）がなされました。最後に学院オルガニストの武田ゆり先生に生まれ変わったオルガンを実際に弾いて確認していただき、作業完了となりました。オーバーホールはその多くが職人さんたちによる手作業で行われました。

現在はコロナ禍ということもあり、礼拝堂に集うことが難しい状況ですが、リフレッシュしたオルガンが音楽をますます豊かに響かせ、神を賛美する楽器として用いられることを願います。





右／オルガンの周りに足場が組まれ、パイプが次々に外されていきました
左／ふいごの補修に使用するテープを丁寧に調整しています

ユニークな「わたしプラン」

小学部長　山本 香織

小学部が2020年度のために定めた教科教育研究目標は、「だれもがユニークなわたし」です。この研究目標は各教科の次年度の指導に備えるために、前年度中に定めるものです。

ユニーク＝とっぴである、とマイナスなイメージを持たれやすいですが、本来は「唯一」ということであり、誰もが神により造られたたった一人のかけがえのない存在である、という意味を持つ素敵な言葉です。そこで小学部では、一人ひとりが「ユニークなわたし」であることを宝物のように愛おしみ、本来持つ固有の考え、力、ペースを、最大限生かす教育を行いたいと考えました。実は一定の時間割により一斉に進められる授業の中で、これらを目指すことは容易ではありませんが、各自が自分、そして他者の大切な「ユニーク」に気づき、学び合うことで成長してほしいと準備を進めておりました。

そこに新型コロナウイルス感染症のため休校による新年度の始まり、というかつてない事態が起きたわけです。しかしこれは逆に、一人ひとりに固有の時間がたっぷり与えられるということです。もしかしたらその環境の中で、むしろ私どもの目指す「だれもがユニークなわたし」が進められるのではないかと考えました。そこで4月当初より、一人ひとりに定めてもらったのが「わたしプラン」です。もちろん各学年、各教科から自宅学習期間中の課題は出ましたが、それとは別に子どもたち自身が考え、決めるもので、「宿題」ではなくテーマもやり方も自由です。

感染症の不安と緊張の中ではありましたが、休校中にたくさんの素敵な「ユニーク」が育ったのでいくつか紹介いたします。





右／毎日繰り返し練習し、空手の難しい形に挑戦中（2年生）
左／自分で調べたレシピを書き写し、計量からすべて一人でやるお菓子づくり（3年生）

- **1年生**
「なわとびの達人になる」
「手話を学ぶ」
- **2年生**
「お料理名人（昼のメニュー担当）」
「もらった人が喜ぶ絵を添えて手紙を書く（みんなずっと家から出られないから）」
- **3年生**
「日本地図博士になる」
「マラソンと読書」
- **4年生**
「将棋の棋力をあげる」
「ウクレレにチャレンジ」
- **5年生**
「クロスステッチに挑戦」
「お家のシェフになる」
- **6年生**
「新聞スクラップを毎日する」
「家の園芸担当大臣になる」

おうちの方も「わたしプラン」をたくさん応援してくださいました。

＊おうちの方の声より

「世界も日本も大変な状況ではありますが、やりたいことをとことんできる特別な時間をいただいたと思っております」

「自分の力をすこしずつ伸ばしながら大きなチャレンジができる機会となりました」

「大変な時期ではありますが、小学生だからこそ、勉強だけでなくいろいろな体験をすることで心豊かに成長してもらいたいです」

「一人でやろうとする行動力に感心し、成長を感じています」

「自分と向き合うことで、自分のことが分かる機会になっているように思います」

「普段は倍速で時が流れているので、将来あの頃楽しかったね、と言えるように家族で大切に過ごしています」

小学部の子どもたちは、持ち前の元気と明るさで、思いがけず与えられたかけがえのない時を、結構刺激的に、有意義に過ごしたのではないかと思っています。





右／姉妹で教会バザーへの献品をたくさん制作中（2年生・4年生）
左／毎日の報道による不安な気持ちや、友だちと会えないさびしさが、お琴の音色によって落ち着くそうです（5年生）

前を向いて

担任　中村 友紀

2020年は、かつてない出来事の中、新しい年度を迎えました。4月から約2ヶ月休園が続き手紙やメールなどを各家庭に送りましたが、幼稚園側から一方通行なお知らせが多くなり、言葉のやりとりも大切と感じ、電話をかけることにしました。自分の組も担任の名前も知らない状況でしたので、まず担任から挨拶をし、子どもの声を聞き、ご家族の心身の健康状態を確認しました。体力を持て余している子どもの相手で疲れた様子の保護者の方もいらっしゃいましたが、シーツでテントを作りかくれんぼをしていたり、朝早くに起床して散歩をしたり、ベランダにレジャーシートを敷きキャンプごっこをしたりなど、さまざまな工夫をして過ごされている様子でした。そのほかに、神様にお祈りをしているという声も聞かれ、神様の愛のうちに過ごしていることを幸いに思いました。

動画のお便りを見ながら踊っている様子



また、幼稚園を楽しみにしている子どもたちのために休園中でもできることを教師全員で考えました。担任から子どもたちに向けた手書きのメッセージ、おすすめの絵本紹介、手作り石鹸、教師手作りの「幼稚園すごろく」「スリーヒントゲーム」(字のないカルタ)などを配付しました。また、幼稚園の様子を伝えるために動画を10回配信し、春の庭の様子や、親子でも楽しめる遊び(手遊び・踊り・小麦粉粘土作り)を紹介しました。

三密を避けつつ新しい生活様式を取り入れ、子どもたちが安心して楽しく過ごせるような対策や工夫をし、6月に始業となりました。各家庭で検温し、登園時に担任に体温を伝え、ご家族の体調なども伺い、子どもたちは手を洗ってから身支度を始めます。庭で遊んだ後は、距離を保ちパーテーションを使用し、おやつやお弁当をいただきます。クラスの集まりも、三密を避けてホールで踊ったり、ゲームをして楽しい時を過ごしています。



教師手作りの幼稚園すごろくを楽しむ子どもたち

久しぶりの幼稚園で少し緊張している子どもや、保護者と離れることに不安を覚える子ども、やっと遊べることが嬉しくて興奮気味な子どもなどさまざまでした。しばらくはクラス半数ずつの分散登園となり、「○○ちゃん元気かなあ?」「今日は、○○ちゃん幼稚園にくるの?一緒に遊びたいな」と友だちの事を気にかける姿が見られました。気温も高くなり、外出を控えていた子どもたちの体力面を考慮すると共に、外遊びの際には熱中症対策のための日よけのタープの下で、すのこを敷きまま ごとをしたり、三輪車を走らせ屋外での遊びを楽しんでいました。自分のやりたい遊びに取り組む子どもたちの姿は生き生きとしていて輝いて見えました。

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大予防のため、楽しみにしていた行事は中止や延期となりました。行事内容を見直し、年長組の夏の宿泊行事や秋のりんご園遠足のかわりに、年長組だけが登園する特別な日を設け、朝から夕方まで幼稚園で過ごし、キャンプファイヤーなど、普段の遊びの中では体験できない特別な時間を過ごしました。

大人にとっては、環境が変わり不便に思ってしまいがちですが、子どもたちは今できることの中で何をしようかと、心を弾ませながら「たのしい!」を存分に感じています。子ども一人ひとりのありのままの姿を見て、何を感じているのか、何をしようとしているのか、子どもたちの心の動きをこれからも大事にしたいと思います。このような状況下においても共に育つ喜びを覚え神様に感謝しています。この「楓園」を手に取っていただいている頃にはどのような状態になっているのでしょうか?見当もつきませんが少しでも安心することが増え、世界中の人々が希望をもって明るい明日へとつながっていますようにと祈ります。

祈りながら、信頼をつなぎ、楽しみを蓄えた日々

緊急事態宣言により休園となった2020年3月から5月は、子どもたちにとっても保護者にとっても卒業・入園・進級の春であり、希望と共に緊張が入り混じる季節でした。私たちは、感染状況の先が見えない中にあって、「この期間を家庭で過ごす親子が、神さまに守られていることに安心し、また園の保育者たちとのつながりを感じながら、家族とともに落ち着いて喜んで過ごせますように」と願っていました。そして毎朝、教職員の祈祷会を続けました（在宅勤務の日はオンラインで祈りを共有しました）。

かえで幼稚園では、休園期間に園と家庭とを結ぶツールとして、あえて手紙による通信を大切にしました。毎週毎週A4サイズの茶封筒やレターパックに、親子への思いを込めてのさまざまなものを入れて、家庭へと投函し続けました。

例えば…担任から子どもへのカード（季節を感じさせるものや、イースターカードや母の日カード等）・保護者への確認や励まし合いの言葉と親子の生活のヒントを書いた手紙・聖書のみ言葉からのメッセージ・遊びのヒント・草花や虫のこと等、春の自然の楽しみ方・子どもが手作業をするための素材・いのちの芽生えを楽しむための種とコットン・毛糸で編んだあやとりの紐・さんびかの絵本・クレヨン・幼稚園の住所を書き入れた返信用のハガキ…そして、「かえでだより」と称する便りを入れました。「かえでだより」には、先生たちの紹介や、毎週変化する春から初夏への園庭の様子や、先生たちが保育再開に向けて楽しみながら準備していることや、絵本や歌の紹介、園にいるダンゴムシやカメの物語等を写真や絵と共にプリントにしました（5月になった頃には、3月に卒業し小学校の入学式を待って過ごしていた新1年生たちにも手紙を出しました）。

茶封筒の中身を作る作業には時間も手間もかかりましたが、そのことが私たち教職員にとっても心の支えと新年度の保育への備えになりました。ゴールデンウィークの頃に各家庭に電話をし、保護者の方とひとときの対話の時間をもちましたが、その折に多くの方から「子どもと一緒にポストをのぞき手紙を待つことが毎週楽しみでした」、「幼稚園とのつながりを感じています」、「伝えていただいた言葉を心にとめて生活リズムや遊びを大切にしようと思います」等のお声をいただき、一方通行ではないことを感じていました。

昨年6月に保育が再開された時、子どもたちの動き出す姿に数か月の空白を感じさせられなかったのは、各家庭での子どもの時間（生活や遊び）が守られていたからだと思っていますし、毎週送った通信によって育まれた信頼と楽しみがあったからだとも思っています。

6月からは、感染予防に配慮をしての保育を重ねています。マスクや消毒、三密の回避などいつもと違う日常ではありますが、子どもたちは例年と同じように礼拝を守り、保育室でも庭でもホールでも心と身体を動かして遊び、人と関わりながら体験を重ねる幼児期を生きています。今を喜んで過ごしている子どもたちを見ていて、私たちはあらためて何が大切かを確認しています。また保護者のご理解とご協力の中で、今年ならではの保育が生まれていることは、大きな恵みです。「コロナ禍だから仕方ない」と思うのではなく、新型コロナウイルスの感染予防をしながら与えられる時間を感謝し、祈り合いながら、子どもとの豊かな日常を創り出していきたいと思います。

上／2020年秋、新型コロナウイルスの感染予防をする中、子どもたちは喜んでそれぞれの遊びを楽しんでいます
下／休園中に幼稚園から各ご家庭に送っていた「かえでだより」より





同窓会会長 就任にあたって



矢野 久美子

いま、世界は大きな混乱と悲しみの中にあります。同窓会も交わる事、集う事が許されず、思ってもいなかった厳しい状況に置かれました。本年度の同窓会総会は議案送付にて行い会員の皆さまのご承認をいただき会長として用いられる事になりました。

同窓会は大きな曲がり角に来ております。伝統と歴史を大切に思う東光会、法人化を目指す大学の楓美会、やむなく休会を模索する旧短大3会。それぞれにふさわしいお役目が与えられるように考えてまいります。6年間勤められた山北前会長より引き継ぐ重責に身の引締まる思いでおります。貧しい器ではありますが、きっと神様が最善に導いてくださると信じて祈りながら進めていきたいと思っております。神を思い、人に仕える虔しい同窓会でありたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

同窓会会長 退任にあたって



山北 千世

と東洋英和女学院同窓会会長の責任を矢野新会長にバトンタッチさせていただくことができました。う嬉しい出会い、よ喜びの出会いを沢山いただいた6年間でした。欠けの多い器にもかかわらず沢山のお支えをう受けたことを只々、感謝するばかりです。え遠大な希望とい一途な神様への信頼のみでわ我が国のじょ女子のがく学問の扉を開くためにい命をかけてくださったせん宣教師の方々の熱き想いは今も「敬神奉仕」に込められています。どんな混迷の中に置かれても、う内なる心は神様を見上げつつ、そ外なる事柄には仕える心でう打つ手をか考えていってきたいと願います。英和生の大好きな讃美歌「愛のわざは小さくても神の御手がはたらいて」を歌いつつ、東洋英和女学院のすべての働きの上に、学院同窓会の歩む道の上に神様の御手が豊かに注がれますようお祈りいたしております。

後援会会長 就任にあたって



牧 健太郎

この度、長きにわたって後援会活動を支えられた小泉会長の後任として、学院からのご推薦と役員会での承認を賜り、後援会会長の大役を仰せつかりました牧と申します。

東洋英和女学院後援会は1929年に校地拡張・校舎新築事業を支援するために発足し、現在では幼稚園から大学の保護者で構成する大きな組織となりました。また「楓の会」を通じて東洋英和に縁を持つ全ての方々と目的を同じくして学院の発展を支える組織でもあります。

六本木西地区再開発事業も道半ばであり、遠隔授業や分散登校などの新たな課題も生じる中、子どもたちの教育環境整備等を支援する後援会の役割は多様化しつつあります。

後援会員の皆様には後援会活動に対する従前のご理解とご協力に感謝申し上げるとともに、今後の変わらぬご支援をお願いし、会長就任の挨拶とさせていただきます。

後援会会長 退任にあたって



小泉 光人

この度、娘の卒業とともにお役目のたすきを牧会長にお渡しする事となりました。後援会員の皆様、特に歴代常任役員と学院事務局の皆様の多大なるご協力により後援会運営を全うする事ができ、深い感謝とお礼を申し上げます。学院をとりまく環境の変化は、少子化や六本木西地区再開発など予期できるもの、そして新型コロナウイルス流行など予期できないものも含め、学院に柔軟で賢明な対応を求め続けているように見えます。後援会はそうした変化に対応し、学院をお支えする環境を整えるため、後援会員の評議員会への参加や楓の会の更なる拡充を学院と共に行ってまいりました。今後こうした種が、少しでも学院が将来にわたって学院に関わるすべての人の安心と誇りを紡いでいく場所となり、神に愛され友と師と充実した毎日を過ごす娘たちの東洋英和での時間の支えになることを祈念しております。